

持続可能な開発のための教育 給水・公衆衛生の改善へむけた地域社会の取組み

都市化と急激な人口増が進むなか、水道、ごみ処理設備、道路、交通機関など、既存の公共施設では十分に対応できない状況が続いている。その結果、大気汚染、水質汚染、ごみの未処理投棄などによって、都市環境が悪化している。

シディプールVDC（村開発委員会）は、カトマンズ渓谷のラリトプール地区にある40のVDCのひとつで、人口約6,000人の半都市型集落だ。既存の給水設備は劣悪で、人口増に追いつかない。また、地域の住民はほとんどが農民で、清潔な給水や衛生管理といったことについて関心が低い。そこで、VDCの劣悪な給水設備と公衆衛生の問題を解決するため、2005年9月、地域住民によるシディプール水・公衆衛生利用者委員会が、パートナー機関（国連人間居住計画、ウォーターエイド・ネパール、総合的都市開発センター、ENPHO）の支援を受け、「シディプール水・公衆衛生総合プロジェクト」を計画、実施した。

川、池、井戸、水道などの現在使われている飲料水源は村民にとって不十分、不衛生であるという現状を踏まえ、質・量の両面から給水設備の水準を向上することを目指し、プロジェクトが計画、実施された。

プロジェクトは、給水設備に加え、村の公衆衛生の向上にも取り組んだ。

水・公衆衛生利用者委員会が、プロジェクトの実施主体となり、設備の計画、実施、運営の実行を率いている。設備は自立運営が可能なように設計され、利用者委員会が運営や保守に責任を持つ。設備運営の主な財源は、利用者が支払う水や公衆衛生の料金である。

実施された活動

□ **給水**：浄水場や高架タンクが設置され、村民へ水が供給されている。

取水→集水室→（送水管（3.3km））→[沈降管→緩速砂ろ過器→塩素処理設備]浄水設備→浄水池→ポンプ→高架タンク→給水管（8.7km）

- **公衆衛生**：し尿をたい肥化する、エコロジカル・サニテーション・トイレ（エコサン・トイレ）が設置された。各家庭でのごみ処理の取り組みが進んだ。
- **能力強化（キャパシティー・ビルディング）活動**：利用者委員会や地域住民のためのさまざまな研修プログラムが開催された。また、地域住民が水や公衆衛生制度について実用的な知識を得るための、視察訪問プログラムも実施された。
- **意識向上プログラム**：水、公衆衛生、環境、開発に対する地域住民の意識を高めるため、さまざまな意識向上活動が実施された。
- **地域住民に対する水・公衆衛生教育**：
 - 地区グループ・女性グループが形成され、水・公衆衛生教育が実施された。
 - 成人識字・識字後プログラムを通じた学習者への水・公衆衛生教育
 - 地元学校児童・生徒への水・公衆衛生（WATSAN）教育

プロジェクト実施後、現在までに、公衆衛生面で多くの変化が現れている。村は清潔で、ほぼ全世帯でエコサン・トイレが用いられるようになった。家庭ごみの処理も自分たちで行うようになった。たい肥をつくることで家庭ごみが収入につながり、エコサン・トイレによってさらに質の高いたい肥をつくることができるようになっている。このたい肥を用いることで、特に野菜畑などの農業生産も伸びている。村民も関係者も、プロジェクトの効果にとっても満足している。

このプロジェクトは、地域の人々が、外部機関の技術・経済支援を得ながら、自分たちで、効率よくかつ効果的に、地元のニーズと地域の資源に基づくプロジェクトを計画、実施することができるということを、証明してみせた。